

会 議 録

会 議 の 名 称	第 8 回 枚 方 市 事 務 事 業 効 果 測 定 指 標 評 価 員 会 議 (WEB 会 議)
開 催 日 時	令 和 3 年 1 月 19 日 (火) 午 後 3 時 ~ 午 後 3 時 54 分
開 催 場 所	WEB 会 議 (枚 方 市 役 所 別 館 4 階 第 2 委 員 会 室)
出 席 者 (参 加 委 員)	山 谷 清 志 評 価 員、掛 谷 純 子 評 価 員、上 森 太 一 郎 評 価 員
欠 席 者	—
案 件 名	1. 事 務 事 業 効 果 測 定 指 標 設 定 ガ イ ド ラ イ ン (案) の 確 認 に つ い て 2. そ の 他
提 出 さ れ た 資 料 等 の 名 称	資 料 1 - 1 事 務 事 業 効 果 測 定 指 標 設 定 ガ イ ド ラ イ ン (案) 資 料 1 - 2 別 紙 チェックシート 資 料 2 今 後 の スケジュール (案)
決 定 事 項	事 務 事 業 効 果 測 定 指 標 設 定 ガ イ ド ラ イ ン (案) を 確 認 し た。 今 後 の スケジュール を 確 認 し た。
会 議 の 公 開、非 公 開 の 別 及 び 非 公 開 の 理 由	公 開
会 議 録 の 公 表、非 公 表 の 別 及 び 非 公 表 の 理 由	公 表
傍 聴 者 の 数	0 人
所 管 部 署 (事 務 局)	総 合 政 策 部 行 革 推 進 課

審 議 内 容

開 会

○事務局 定刻になりましたので、始めさせていただきたいと思います。
座長、よろしくお願ひいたします。

○座長 ただいまから、第8回枚方市事務事業効果測定指標評価員会議を開催します。
では、まず事務局から本日の資料や進め方等について説明をお願ひいたします。

○事務局 本日の資料ですが、本日の会議の次第を記した次第書と、資料1-1のガイドラインの(案)、それと資料1-2の別紙のチェックシート、そして資料2の今後のスケジュール(案)になっております。本日は、この内容について、主にガイドラインの内容の案について、皆様方からご意見を頂戴したいというふうに考えております。よろしくお願ひいたします。

案件1 事務事業効果測定指標設定ガイドライン(案)の確認について

○座長 まずは案件の1です。事務事業効果測定指標設定ガイドライン(案)の確認についてでございます。まず、この案につきまして事務局から説明をお願ひいたします。

○事務局 それでは、案件の1、事務事業効果測定指標設定ガイドラインの案の検討についてご説明をさせていただきます。

まず資料の説明に入ります前に、本ガイドラインを策定するにあたっての基本的な考えでございます。本ガイドラインについては、事務事業への指標等の設定の考え方や、ポイント、留意点などにつきまして、この間の評価員会議のご意見等を踏まえ、他市の例なども参考にしつつ取りまとめたものでございます。

前回の会議で、各評価員の先生方にご確認いただきました報告書に対していただいたご助言、ご提案について、事務局として考え方を整理し、可能な限り本ガイドラインに盛り込んでまいりたいと考えておりますが、例えばロジックモデルの策定対象とする事務事業の範囲や、全ての一般事務事業へのアウトカムの設定を求めること、また、同規模都市とのベンチマーク比較や事業分類ごとの統一的な資料の設定を行うことなど、現時点において事務局でも検討がまだ十分でないものもございます。

こうした内容については、本日お示しをしておりますガイドライン(案)の中には記載できておりませんが、今後さらなる検討、課題整理を行った上で、本ガイドラインに記載することなどについて考えておりますので、よろしくお願ひをいたします。

また、本日の会議に先立って、評価員の先生方にお送りさせていただきましたガイドラインの案から変更させていただいてる点もございまして、合わせてご説明をさせていただきます。

それでは、本資料の構成でございまして、まず目次でございまして。大きくは「①の指標設定」についてと、「②の効果測定」についての2項目に分類をしております。

「①の指標設定」については、事業実施前の指標設定段階における考え方や具体的なポイント、留意点など、「②の効果測定」では事業実施後の指標の見直し等について記載をしているものでございます。この点につきましては、指標設定とその後の効果測定という大きく2段階の構成をしてるというもので、事前にお送りをさせていただきましたガイドラインの(案)から修正をさせていただいているところでございます。

それでは内容について説明させていただきます。

まず3ページの「指標設定の必要性」についてでございます。ここでは指標設定が必要な理由や指標の活用方法等について記載をさせていただいております。

次の4ページに、活用例として4項目挙げてございます。「(3)の予算や人員要求時の判断材料として活用」ということにつきましても、報告書の総論の中でご意見をいただいている部分でございます。「事務事業の実施部署における予算や人員の獲得のツールなどにも活用できるのではないか」というご意見をいただいております。その内容についても記載をさせていただいているところでございます。

次に、5ページの「②指標設定までの具体的な流れ」でございます。ここでは、指標設定が必要となった場合のロジックモデルの設定など、指標設定に至るまでの流れを記載しております。それぞれの内容につきましては、6ページ以降にお示しをしております。

それでは、6ページの「③事務事業単位の設定」でございます。ここでは、次の7ページにかけまして、適切な大きさの事務事業の単位を設定するにあたっての、単位設定の検討手順を記載しております。単位のイメージとしましては、国や府の制度、規則や要綱などを踏まえて設定するという事で、ちょうどいい大きさを設定するという事としております。

7ページでございまして、「(2) (1)で想定した単位を分割(複数の単位に分けて設定)する必要性について検討する」、「(3)既存の事務事業単位との統合を検討する」につきましては、報告書の総論の中でいただいております「予算規模が多額な事業については、分割を、少額な事業については、他の類似事業とまとめて評価することを検討することや、「類似する分類の事務事業について統一的なアウトカムや指標を設定することを検討する」、「事業所管課の作業負担軽減として、事務事業単位を統合して数を減らす」というご意見をいただいております。そういった内容について記載をしておるところでございます。

なお、事前にお送りさせていただきました資料では、「(3)既存の事務事業単位との統合を検討する」場合のイメージ図をお示ししておりましたが、図につきましてはより分かりやすいイメージを示すため、再度検討したいと考えておりますので、一旦削除をさせていただいております。

次に、8ページの「④ロジックモデルの設定」でございます。ここから10ページにかけては、設定した事務事業単位において実施している事業内容をもとにロジックモデルを設定するための手順やイメージ、設定例、設定にあたって留意するポイントなどを記載しております。

事前にお送りさせていただきました資料では、ロジックモデル作成例の2として、アウ

トプットまでの設定例を記載しておりましたが、幾つかのパターンを例示として示すこととしておりまして、そのパターン例について検討しているところです。

次に、11ページの「⑤指標の設定」でございます。ここから14ページにかけては、各事務事業で設定したロジックモデルをもとに、その内容を数値として測定できる指標を設定することや、設定例や設定にあたって留意するポイントについて記載をしております。

12ページの指標の設定例でございますが、先ほどの9ページのところのロジック同様、幾つかのパターンを例示として示すことを考えておりまして、そのパターンについて検討しているところです。

次に、15ページの「⑥目標の設定」でございます。ここでは、設定した各指標につきまして、目標値を設定することや目標設定にあたって留意するポイントを記載しております。目標設定のポイントの表のうち、17ページの表の真ん中の項目「可変性のある(努力すれば向上できる要素のある)数値の設定となっているか」、これにつきましても、報告書の総論でご指摘いただいた内容を踏まえまして記載をしているものでございます。

なお、15ページから16ページにかけても、表の記載の内容については、分かりやすく表現するため、事前にお送りさせていただいた資料から何点か修正をさせていただいております。

次に17ページでございます、「⑦のデータがない場合の指標の設定方法」でございます。ここでは事務事業に係るデータがないことから、指標の設定に苦慮する場合を想定し、指標設定の際の参考となる考え方について記載をしております。なお、表の下「なお」以降でございますが、評価報告書(案)の総論でいただいた内容を踏まえまして、同様に記載させていただいているものでございます。

次に、19ページでございます。「⑧有効性の確認」でございます。ここでは、設定したロジックモデル、指標、目標について、各事業所管課で内容が有効的なものになっているかにつきまして、別紙のチェックシートを用いて点検することと、その具体的なチェック項目について記載をしております。

このチェック項目につきましては、事前にお送りさせていただいた資料では記載しておりませんでした。別紙ではなく本編の説明として記載がある方がイメージしやすいのではないかと考え、追記をさせていただいております。なお、チェックシートにつきましては、資料1-2でお示しをさせていただいております。

本チェックシートでは、対象となる事務事業の名称、ロジックモデル、指標、目標を記載した上で、ガイドライン(案)に記載している各項目において留意するポイントを一覧化し、ポイントの内容を満たしていればチェック欄にチェックをつけるといったような様式になっております。

ガイドライン(案)の20ページになりますが、「2. 効果測定について」でございますが、ここでは事務事業の効果測定は、原則事務事業の実績測定により行うとした上で、ロジックモデルどおりに効果が発現しているか、そういったことを確認するとともに、社会情勢の変化等により事務事業の内容自体に変更が必要な場合や、効果測定の結果、目標値を下回るなど想定したとおりの効果が出ていない場合に、「事務事業単位」「ロジックモデル」「指標・目標設定」「事務事業のあり方」等についての見直しに取り組む必要があると

いうことを記載しております。

ガイドライン（案）の説明は以上となります。

冒頭申し上げましたが、総論についてご指摘くださいました幾つかの点につきましても、引き続き検討を深めて追及をしていくというふうに考えております。そうしたことから、お示ししているガイドラインについて足りない点、加えるべき点などございましたら、ご意見等を頂戴したいと思いますので、よろしく願いいたします。説明は以上となります。よろしく願いいたします。

○座長 ありがとうございます。

若干、以前送ってもらったものから変わっていますが、お気づきになった点、いろいろご指摘いただければと思うんですけども、いかがでしょうか。

どうぞ、お願いします。

○B委員 事前にいただいている資料のページ数ですので、もしかしたら変わってるかもしれないのですが、事務事業単位の設定、幾つかあるんですけども、前の資料では6ページ目のところにあったと思うのですが、ここに関してはガイドラインに含めるべき内容かどうかは分からないんですけども、小さ過ぎたときには評価に手数がかかってしまう、たくさん評価しないといけないというデメリットがあるというのは、事務局側としては持っておかれたらいいかなという気がしています。

評価した、それこそ評価へのインプットに対して、あまりアウトカムがないというようなことになりかねないかなと思いました。これはガイドラインに入れてしまうのはいいのか悪いのか分からないので事務局の方への助言というふうにしておきたいと思います。

あと、⑤の指標の設定についてということなんですけれども、新たにデータ収集を行うなど検討してくださいとあるのですが、その後あまりデータ収集に時間をかけたりしないようにというようなコメントもあったと思うんです。元資料では16ページあたりなのですが、データの把握に過度のコストや時間を要していないかというところがありますので、そこの整合性というのは確認していただいたほうがいいかなと思いました。

また、インプットからアウトカムまでの図の中で、○○啓発事業のインプットのところに、○○啓発イベント開催回数が含まれてまして、前からお話してたと思うんですけど、この活動の指標というのがインプットかアウトプットか微妙な立ち位置のものなのかなと思いました。

例えば、そのイベントの開催回数であれば、これをアウトプットとすることも可能だと思うんですね。例えば、投入した予算を開催回数で割り算すると、1回当たりの投入の金額とかが出てくるとか、参加者数を1人当たりとするのと同じように、イベント1回当たりどれぐらいかかっているかというのを見ることも可能かなと。そういう意味では、開催回数というのがどっちになるのかなというのは、私の中でも揺れるところがありまして。指標の設定によっては、アウトプットに入れておいて、イベント1回当たりの金額、コストを出してもいい場合もあるのかなと思いました。

最後にもう1つだけ。指標の設定について出生率のほうが適当というところがあったように思うんですけども、数よりも率のほうが適当という意味では、これでもいいんです

けれども、感覚的にこの事務事業に対して、やっぱり出生率という指標自体が外部要因が大き過ぎて、適当ではない場合があるのかなど。ですので、もう少し何か指標を小さいものに代えていただいたほうが、いいかと思いました。

OA 委員 今、評価員がおっしゃってたのは、本当に正論だなと思って聞いてたんですけども、最初のほうはまず開催ですけど、1回2,500万の予算を取って3回会議をやる。これで7,500万。ところが実際は1回しかやってないんですけども、それが5,000万ぐらい使ったということもあると思うんです。だから、そういうのを洗い出すということであれば、開催というのはアウトプットにしたほうが分かりはいいかもしれないです。つまり、何を知りたいのかというところに関わってくるんだと思うんです。

今の話だと2,500万の予算要求をしたのを3回やる予定で予算要求してたのを、1回しかやってない。しかも、それで5,000万使っちゃって、どういうことなんだという話も出てくるので何が正しいか間違いかはそれぞれの場合によりますが、そこら辺は枚方市としてどういうことを明確にしたい、事実を知りたいのかという、そこも明確にイメージしていただいたほうがいいのかもしれないです。

これに対する1点、逃げ道というのがあって、インプット、アウトプットの間に、実はアクティビティというのを私たちは入れてるんですよ。3回開催したとか、1回開催したとか、1回開催して、それに何百人が参加した。1回で何百人、2回やって何百人という、それがアウトプットだというような説明も可能なんです。そこを検討していただいたほうがいいのかもしれないです。

○事務局 承知いたしました。

OB 委員 ありがとうございます。

OA 委員 今なんかよくコロナで活動につながらないいろんな事業があって、給付金詐欺とかも出てくるのでアクティビティすら存在しない場合もある。そういうのも探せば面白いと思います。

あと、出生率の話ですけど、やはりコントロールできないですよ。頑張ったから出生率上がるとかというのではなく、その間にいろいろ段階があると思います。ですので、そちらのほうにずらしたほうがベンチマークとしては安心です。

OC 委員 よろしいですか。私も昔のバージョンで見てまして、10ページ目なんですけれども、4番のロジックモデルの設定についての2枚目です。こちら、作成例ということで、〇〇のイベントという形で例示をしていただいているんですけども、これはこれで1つどういうモデルなのかというのを説明するという意味ではいいかなと思うんですけど、もし可能であれば、今回いろんな評価に取り組む中で事務局のほうで、これはベストプラクティスだなと思うもの、インプット、アウトプット、アウトカムが自然につながっていて、ストーリーがよく見えるというものがもしあるのであれば実例として載せる。何か吹き出しみたいなので追加コメントで、この辺がいいんだと示してあげるといい

のかというふうに思います。あまりよく分かってない方も含めてある程度イメージが統一されるかなと。そういう実例を使うということができないかと検討いただきたい。

○事務局 分かりました。冒頭、こちらの中でも説明をさせていただいたんですけれども、このロジックモデルとあと指標の部分で、イメージを持ってもらうという意味で幾つかパターンを例示したいなということで思っておりますので、評価いただいた実際の実例といますか、おっしゃっていただいたベストプラクティスという観点から、幾つかピックアップして入れていきたいと思っております。

○CG 委員 ありがとうございます。

○座長 ほかにございますか、よろしいですか。

○CG 委員 あと少し気になったのは、15ページ目なんですけども、先ほど出生率のお話がありましたけども、こちらで物価指数を取り上げておられる中で、この物価指数の説明に関しても、変動幅が大きいため不相当とあるんですけども、最近の状況を見ていると安定的ではないのかどうかというところで、そんなに今動いてない状況なのでどうなのかなというふうに思ったのと、出生率と同じですけども、施策によつての可変性という意味ではすごく厳しいのかなというふうに思いました。

あと、その指標の中で2行目に長期的というところで、10年から20年程度というふうに書いていただいているんですけども、確かに20年ぐらい継続して使えればいいかなとは思いますが、こういった評価をしていくという意味では、20年というのは長すぎるかなと思いました。

○事務局 ありがとうございます。

○OA 委員 今のご指摘なんですけど、時間の長さというのは結構いろいろあるので、難しいと思います。さっきの事務事業単位の設定についてのところとも、やはり今のお話が絡んできて、ずっと続けているような事務事業もあるし、今回のコロナで給付金がきて、枚方市で今年度に限りやるみたいな話もあるでしょうし、そこが少し難しいかもしれません。

このガイドラインというのは、原課に示してこういうふうやっていくというように使うわけですね。

○事務局 そうですね。考え方を示していくということで考えております。細かい事業の事情というのものもあるかなと思っておりますので、おおよその方向性といいますか、ただ、方向性といいながらも、イメージを持ってもらえるような作り込みをしたいと思っております。細かく書いているところと事業の実態によって細かく書けないところとか、いろいろ出てくるかなとは思っております。

○OA 委員 実際にヒアリングしてたときも思ったんですけど、事務局が枚方市役所の全て

の事務事業をある程度理解しているということでもいいんですね。

○事務局 そうですね。事務事業の実績測定というのを毎年チェックしておりますので。

○OA委員 これは、今の評価員の御質問にも関係するんですけど、事務局の全体を把握してる人がこれからも10年、20年行革推進課には居続けるという前提ですね。

○事務局 今、それぞれの担当、特に事務事業実績測定の担当はかなりこの事務に関して、時間と労力を取られてるところもありまして、かなりその内容については理解をしてるといいますか、状況が分かっているということになるんですけども、今先生おっしゃっていただいた、人事異動のジョブローテーションを考えますと、その職員が10年、20年在籍するというのは絶対あり得ませんので、いかに業務の引継ぎを円滑に進めていくかというところに尽きてくるのかなとは思っています。

○OA委員 なかなか難しい話で、それを了解した上での話になってくるんですけど、そうすると、ガイドラインといったときに、これを見ればある程度分かるという、現場の人を悩ませないというようにしとかなないと、結構難しいんじゃないかなと思います。

そこでそれを背景にした質問なんですけど、事務事業の単位というのは多分いろんながあるんだと思いますが、今まで他で見てきた経験から言うと、基本、事務事業は予算の単位ですよ。それで統一はできないのですか。

毎年予算要求で使う、それでそのときのペーパーとこれが連動してると。そうすれば書くほうは楽だと思いますが。

○事務局 そうですね。款項目節の中の今、目レベルか節なのか、なるべくその予算の費目等で紐づけをできるようにということで、想定して再編はしたいとは思っております。

ただ、必ずしもそのパターンにはまるものとはまらないものというのもやっぱり出てくるのかなと思いますので、今すぐどうということは言えないんですけども、まず今の実態をおさえさせていただきたいと思います。

○OA委員 そうすると、1つ考えられるのは、先ほどご指摘いただいたベストプラクティスですか。ぴたっとはまるやつと、これははまりませんねというやつの実例を示していただいて、そうするとこれ原課の人で書く人はなるほどなと思うじゃないですか。それで、難しいところは行革推進課に質問ということでやっていただくなんてこともありだと思います。

○事務局 予算を基本としつつ、それ以外のものももちろんあるでしょうから、そういうものはまた別で整理するというのでしょうか。

○OA委員 そうですね。そうなってくると、目的で4つぐらい最初のあたりに挙げていただいていた。何のためにこれがあるのかという。事前評価、事業の進行管理、予算や人

員要求との判断材料、それから市民に対するアカウンタビリティ。今の私の話は3つ目の予算や人員要求の判断材料というところでぴたっとはまります。ただ、あまりそればかりやってると、一般の市民の人は何だかよく分からないわけですよ。

どういうふうに活用するかと書いてれば、その目的に合わせたような指標とか評価シートとかチェックシートとか出てくるので、そこは意識されたほうがいいのかもかもしれません。

私からは以上でございますが、お二方、全体としての印象というか、ご意見ありますか。

OB 委員 私のほうからは、全体的な意見なんですけれども、拝見したときに、ご尽力いただいたなというところで、これだけの内容を含めてガイドラインを作成されたというのは、大変だったのではないかと思います。ただ、その中で、先ほど座長もおっしゃっていたように、原課が使うというところから考えたときに、分かりやすい部分と、逆に何かきっちりし過ぎていて融通が利かなくなる部分があるかと思います。

分かりやすさを追求したときに、こういうときはこうしましょうと言っていけば分かりやすい部分もあるんですけれども、事業の内容ごとによって変わってくるのを、1つの正しいのはこれだと言ってしまいがために、原課がやりにくいところが出てきたりするのがあるのかと思います。そのあたりのさじ加減が難しいなと思いながら拝見しておりました。

そして、まだ始まったばかりというところなので、そのあたりは事務局がアドバイスをしていただけたらと思いました。

OC 委員 ガイドラインに関しての話からずれるかもしれないですけども、やはりどういう目標を持ってアウトカム指標を持って事業をするかというのは大変重要なことだと思っていて、特に新しい事業をする場合というのは、インプット、アウトプット、アウトカムでいうと、まずアウトカムのところで現状どれだけその測定値が悪いかということ把握をして、そこからこれぐらいまでは引き上げたい、ほかの大阪府内の市の中での平均値まで上げたいという目標がまず決まって、それを達成するために、どういうアウトプットを入れていったらいいのか、またそのアウトプットをやるためには、どれぐらいの予算や人がいるのか、インプットをどうするかという、そういう感じになるんですかね。このアウトカムからアウトプット、インプットみたいな形で策を決めていく。何かそういう流れがあってもいいのかなと思います。

今、アウトカムの指標に関して、なかなかいいのがないなって悩んでいるんですけど、そもそも初めに決めるのは、このアウトカムの指標をどれだけ改善するのかと、そこがスタートかなという気がしてまして。ガイドラインに書くことではありませんが、そういう取組をしていただきたいなと思いました。

OA 委員 ありがとうございます。そうですね。何かそういうアウトカムから逆算してやっていくというのがないと美しいですね。

OC 委員 私は奈良県の包括外部監査を何年かやってまして、県の指標はこうだと、これをどうにかしたいみたいなアプローチを結構されていて、そういうところというのは結構

普遍的なことなのかなという気もしています。

OB 委員 今回のお聞きして、確認させていただきたいところがあるんですけども、今回は事務事業レベルの話でしたが、施策レベルとか政策レベルで、こういう話はまだ出てはきてないのでしょうか。

やはりどういうところを目標にしていくかというところから、またどういう事務事業をやるかというところを逆算していくという意味では、施策があつて、事務事業を考えてというふうに、上からどんどん考えていく。その中で、施策レベルでこういう目標がある。この目標を達成するために、こういう事務事業をやりますと。その事務事業それぞれの目標はこうでというふうに、考えていくのかなと思うんですけども、そのあたりの今後の方向性とかというのがもしあれば教えていただきたいなと思います。

○事務局 総合計画がありまして、その総合計画の施策の体系ごとに事務事業が位置づけられているという流れになってますので、施策レベルで事務事業をぶら下げて見るときに、ここの取り組みのこの事業に予算としてこれだけぶら下がってます。それにはこれだけの事務事業がぶら下がってます。それでもここの部分がまだ弱いので、予算を入れていきますとかですね、あるいは総合計画の中の実行計画レベルの中ではあまりにも事務事業が少な過ぎると、なので、そこはやっぱり新規事業を立ち上げて本来の目指すべき目標に向かって取り組んでいくべきだろうというところで、今回のこの事務事業のロジックモデルの話をするときに、企画部門といろいろ話を詰めながら進めているところです。

ただ、今回あくまで施策レベルのその評価の部分とこの事務事業の連動みたいなのところをどう見せていくかというのを、そこは課題として認識してます。具体的な仕組みについては、並行して、定期的に会議をしながら進めていっているところです。

OB 委員 ありがとうございます。

OA 委員 今回の各評価員のお話は、アウトカムから逆算的にもう1回そういうものを作れないかという、それに向いてるものもあります。それに合わせていけば、まさにおっしゃるように、政策レベルから上からトップダウン的にやっていくのもあり、今現在であれば、例えばコロナであれば、枚方市内の小中学校でコロナクラスター化してるしてない。ほかと比べてみて出ているのなら出ている。出てないのであれば、出てない。それはどういうことなのかとか、いろんなやっていくというのはあると思うんですよ。

つまり、比べてみたときに枚方だけが著しく数字が劣っているとかいった場合に、その問題点を探す、そのためにベンチマークを使ってみるとか、それはあると思います。

実は2001年頃に、国際的にすごくベンチマークがアメリカで流行って、例えば犯罪とか、あるいは子どもの児童虐待とかそういう件数を挙げて、それをどういうふうに下げていくかという、それでベンチマークをつけて似たような規模の市と比べて、いろんな取り組みがうまくいってるかどうかを見ると。

ただし、基本はアウトプットで、アウトカムではないのです。実はベンチマークをとるのは。アウトカムはいろんなところで努力できないような外部の影響とかいろいろある

ので、難しいです。

今のお二方がおっしゃったのは、そういうところの実験をやってみるという話でしょうか。うまくいけばそれを取り込んでいくと。県とかになると、権限が結構あって、いろいろできますが、市のレベルというのは、結構厳しいのかなとも思います。

○事務局 市長が人口減少が進む中でも枚方に定住してもらう人を増やすということで、定住促進をするための組織を作って、定住促進するために貧困の家庭に補助金を出したりとか、いろいろしてはいますが、なかなか爆発的にはもちろんいかないんですけども、本当にその事業が、それに結びついてるのかどうかというのは、日々検証していかないといけないのかなと思ってます。

市長の考えとしては、まさに今、言いましたとおりの、人口を増やすとか小学校の学力を向上させることで、そのソフト事業をどう考えていくかというところを、教育委員会も含めて皆、頭を悩ましてるところでございます。

○OA 委員 実際に、どういうふうに取り組んでいるのかという、別の手法でプログラム評価というのがあって、その手法と2つでベンチマークを使う手法の2種類で分けてやるという方法があります。大体これは国際的にそうで、今の各評価員のアドバイスというのはまさにそのプログラム評価的なもので、アウトカムベースでプログラムを見ていくというのは可能なんですけれども。

ベンチマークというのは現場の最先端のところ、実際にどういう活動をしているのかという、これをチェックするような感じなので、これで問題点があればプログラム評価に回していくんです。ですので、その2段階えみたいなのは、イメージされたほうがいいのかもしいです。

お二方からも今、ご意見があったように、現場の方々はやっと大変かもしれないですね。3年、4年続ければ何となくというのが分かってくるんですけど、分かってきたときにもう人事異動でいなくなるというパターンが繰り返されるのではないかと思います。

拝見したところ、非常によくできてて、ガイドラインとしてはいいかなと思いますが、これをずっとやり続けるということは、かなりのエネルギーが必要なのかなと思います。

それから、もう1点いえば、私はODA、外務省なんかでも関係してやってるんですけど、このようにガイドラインとプラス、マニュアル作ったほうがいいのかもいれません。先ほどアドバイスいただいたようにベストプラクティスなんていうのは、ガイドラインにして、マニュアルはハウツーものですから、どうやってみていけばいいのかという、そこは分けたほうが、実際に書き込む人については便利だと思います。

一般市民にはガイドラインを、市役所の中の人にはマニュアルを見せるというアカウントビリティも使い分けをしないと、理解してもらうのはすごく大変ですので。

○座長 それでは最初の議題につきましては、とりあえずは以上で終わりにします。

では、ただいまの意見などを踏まえまして事務局で必要な修正、あるいは再度ご検討いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

案件2 その他について

○座長 それでは案件の2、その他について事務局から説明をお願いします。

○事務局 その他でございます。まず今後の予定ということになりますが、資料2のスケジュール(案)でございます。本日評価員の皆様方よりいただいた意見を踏まえまして、事務局で検討中の部分等々も含めて内容を修正をさせていただきたいと思っております。

また追加のご意見等ございましたら、1月22日の金曜日をめぐりに事務局まで、メールでも結構ですのでいただければと思います。

その後、25日の月曜日をめぐりに、改めて評価員の先生方にお送りをさせていただき、その内容についても修正の意見ございましたら、1月の28日の木曜日をめぐりに事務局まで連絡をいただきたいと思いますと思っております。

その内容を踏まえて、次回の第9回、2月2日の火曜日に10時から予定しておりますが、改めてご確認をいただきたいと思いますと考えております。

皆様方には、緊急事態宣言が発令されてる中で、引き続きタイトなスケジュールで資料の内容確認を行っていただきますが、よろしくお願いをしたいと思います。事務局からは以上です。

○座長 ありがとうございます。

それでは、ほかに何かご意見ございますでしょうか。

閉会

○座長 それでは特にないようであれば、これで閉会とさせていただきたいと思います。では以上をもちまして、第8回評価員会議を終了いたします。お疲れさまでした。